

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 22年 3月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0172001018
法人名	株式会社アイリスマーク
事業所名	グループホーム ふれあい小樽稲穂
所在地	〒001-0018 小樽市稲穂1丁目1番ー1 (電 話) 0134-33-6541

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年2月23日	評価確定日	平成22年3月17日

【情報提供票より】 (22年 1月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15 人	非常勤 0人 常勤換算 15.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 2 ～ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	
その他の経費(月額)	光熱費16,000(冬季間+6,000 円)	
敷 金	有 (48,000 円) 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 有りの場合 償却の有無 有 / 無	
食材料費	朝食 250 円	昼食 350 円
	夕食 500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200 円	

(4) 利用者の概要 (1月 18日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82、8 歳	最低 63 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ツ山病院 本間内科医院 オキツ歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、小樽の中心街に建立し、メイン通りには寿司屋通りがあり、運河迄7分の環境にある。地域における認知症ケアのキーステーションとして地域・家族の方が訪れやすい環境を作り上げている。「ふれあい」を原点に、職員は利用者から漬け物作りを教わったり、「雪あかりの路」のイベントでは利用者と職員と一緒にオリジナルのキャンドル造りで地域の方々、家族も含め喜怒哀楽を共にし、支え合う関係を築いている。職員は「親が」「自分が」入りたくなるホーム創りを念頭に毎日のケアで、質の向上に熱意をもって取り組んでいる。開設4年目になるが職員の異動は少なく、馴染みの関係もできていて、今後に期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価課題については改善シートを作り、全員で取り組める項目から改善に向け検討したが、「同業者との交流を通じた向上」と「災害対策」については現在検討中で、今年度の改善に向け取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価についてはユニットごと職員全員で書き込み、話し合い、その後ユニットリーダーがまとめ上げた。全員で書き上げたことで一人ひとりの職員は気づきや支援のスキルアップに繋がった。また、前回の改善課題の取り組み状況の確認も行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は事業所に関りのある方に呼びかけている。利用者、家族、市職員、町内会代表、協力病院看護師、の参加者で構成し、2ヶ月毎に開催し多様な意見・情報の交換が行われている。事業所からはサービスの提供状況、運営状況等の報告、外部評価の報告、その他、相談事や、苦情、要望を受け入れサービスの向上に活かしている。次回は災害時の地域との協力体制について話し合う予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会は定期的開催され、意見や相談、苦情、要望等何でも話し合える雰囲気を作っている。苦情や要望に対しては迅速に検討し、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「雪あかりの路」では利用者と職員と一緒にボランティアの指導でオリジナルキャンドルを作り上げ、ホーム側の通路に灯し、利用者、家族、地域の方も楽しみ好評であった。イベントの度に地域との連携が深まっている。また、市からのボランティアの受け入れも多彩で、利用者の暮らしに華を添えている。

2. 評価結果 (詳細)

自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は地域密着型サービスとしての役割を理解し反映された内容のものとなっている。事業所独自の理念を作り上げ、事業所内の目につく場所に掲示されている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎月のミーティングの際に触れ、職員間で共有し実践に向けて確認し合っている。職員は理念をネームプレートの中に入れ、介護現場において利用者への言葉かけや態度に理念が反映されているか振り返る意識を持っている。		
2. 地域との支えあい				
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域には買い物、散歩、外食、出前や理美容室等で関わりを持ち、町内会行事として、開催された桜祭りに利用者と共に参加した。又、「雪あかりの路」のイベントでは利用者職員でオリジナルのキャンドルを作り事業所側の通路に灯し、地域からも好評であった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価についてはユニット毎職員全員で書き込み、話し合い、その後ユニットリーダーがまとめ上げた。全員で書き上げた事で、一人ひとりの職員は気づきや支援のスキルアップに繋がった。また、前回の改善課題の取り組み状況の確認も行った。		

自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行われている。参加者から多様な意見、助言を得ながら、事業所のサービス提供状況、運営状況の報告、その他、相談、苦情、要望を受け入れ、サービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、事業所だけでは判断しかねる様な困難事例への相談やアドバイスを受けている他、生活保護等についてもアドバイスや指導を頂いている。また、相談に出向くこともある。		

4. 理念を実践するための体制

14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは毎月のふれあい便りで担当職員から利用者の個別の近況報告を書き加え、金銭出納帳のコピーと領収書も一緒に送付している。状態の変化については其の都度、電話で連絡し、来訪時に直接報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見、不満と何でも話し合える場を持っている。意見や不満があった場合には迅速に検討し、運営に反映させている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は少ないが異動がある場合には職員間で話し合い、利用者へのダメージを最小限に抑える工夫はしている。職員間でフローア異動はあるが1階の多目的ホールで何時も体操やイベントで合同の交流を行い馴染みの関係は保たれていて、時に問題はない。		

自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
------	----	---------------------------------	----------------------	----------------------------------

5. 人材の育成と支援

19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者や管理者は職員の教育に関して理解を示し、内外、法人内の研修や学習には積極的に取り組んでいる。職員も向上心をもって働きながらトレーニングをしたり、職員間で刺激し合っている。今年度も介護福祉士の資格に挑戦するスタッフもいる。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者や管理者はグループホーム協会、市グループホーム協議会に参加して、情報交換などを通じ交流を図っているが法人外の相互訪問等の計画はあるが実現に至っていない。</p>	○	<p>他の事業所へ見学や相互間の訪問で、事業所外の人材の意見や経験をケアに活かし、サービスの向上に役立てることに期待したい。</p>

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービスを利用するに至っては見学や体験入居で雰囲気を味わってもらい納得して利用してもらっている。やむを得ず、すぐに入居になった場合には、家族の協力を仰ぎ安心感を持ってもらう等の対応に努めている。</p>		
----	---	--	--	--

2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者には人生の大先輩として、生活の知恵を教わったり、漬物作りを一緒に行って、教えてもらうなど得意分野で生活を楽しんでいる。日々の暮らしの中で支え合う関係を築き時に職員は利用者からねぎらいや、励まされることもある。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とは、日常の関わりの中でゆったり1対1の時間を大切にし、思いや意向の把握に努めている。生活習慣の中でお酒やタバコを嗜む利用者には工夫して支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族の要望を聞き関係者の意見を聞きプランに反映している。担当者会議では日頃の気づきを記入してもらい現場のスタッフの意見も取り入れ現実に達成できる方向でケアマネがまとめる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度の見直しを行っている。介護計画の遂行状況、現実を評価すると共に期間にとらわれず、変化に応じて臨機応変に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望を踏まえ暮らしを守るための多機能支援として、受診、理美容支援を行っている。家族の要望で1階の多目的ホールの畳の部屋を利用して、宿泊支援も行っている。		

自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
43	<input type="checkbox"/> かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携内科医は月に2回、整形、歯科も定期的に往診している。その他に利用前からのかかりつけ医には基本的に家族が同行支援になっているが職員が支援することもある。		
47	<input type="checkbox"/> 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族が看取りを希望した場合には、家族、主治医、看護師を交えて話し合い、方針を共有している。これまでに家族の強い希望で看取りを経験している。この時には、事業所で出来る事と出来ない事を話し合い、家族の協力で宿泊し、看取った。経験したことで職員は今後のスキルアップに繋がった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーや誇りを損なうような声掛けや対応はなされていない。また、面会簿も取りやめて工夫している。トイレ内や居室にも利用者の日用品には配慮されていた。		
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所では基本的な1日のながれは出来ているが、その日、その時々利用者の体調、気分、状況に合わせて支援している。散歩や買い物、入浴、多目的ホールでの体操など個別の希望に応じて、配慮している。		

自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所での食事は家庭的を基本に材料の購入、献立、調理まで職員が行っている。利用者からの希望や好み、苦手なものを踏まえて、献立を工夫し、食べることが楽しみに繋がる支援を行っている。時に外食や出前で変化もつけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に1週間の流れはあるが利用者の希望に沿うよう努めている。風邪などで何日も入浴できない利用者には、シフトを変更して、就寝前の入浴支援をすることもある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野で其々の力を発揮してもらえよう、漬物づくり・年賀状作り・俳句・洋裁・書道等楽しんでいる。また、冬季間は外出しにくいので、ホールで体操やゲーム、カラオケで気晴らしの支援を行っている。事業所のイベントでは市ボランティアとしてフラダンス・琴演奏・手品・歌謡ショーと多彩に導入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域での買い物、散歩、外食、美容室、ドライブ、お寺参りと利用者の希望に応じて楽しみ事につながる支援を行っている。冬季間の外出は少ないので多目的ホールを利用して、リハビリを兼ねた支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には日中鍵はかけていない。家族が気軽に行き来していることで、利用者がエレベータを利用して、1階の玄関に出るときには職員はもとより訪問した家族により見守って支援している。		

自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の協力のもとに利用者と共に年2回実施されている。運営者は昼夜を想定した訓練や推進会議を通して地域協力や連携について取り組む計画はあるが実現に至っていない。	○	運営推進会議を通し地域の理解と協力が得られるように、避難訓練時に参加を呼び掛けたり、具体的に避難場所の確認や支援方法を話し合うなど実現に期待したい。

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は全員記録されている。献立については、職員自らがカロリー、蛋白、塩分、繊維の成分を算出し、大まかな栄養バランスは把握しているが提携病院の管理栄養士の専門的アドバイスも依頼をしている。		
----	---	--	--	--

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1)居心地のよい環境づくり

81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の共用空間は狭くもなく、広すぎず絵画や利用者の作品が飾られていて落ち着いた雰囲気になっている。オープンキッチンからは利用者さんの様子がうかがわれ見守りやすく利用者の表情も穏やかで時折職員や利用者同士の会話もあって居心地の良い場となっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には使い馴れた馴染みのタンスやテレビなどが持ち込まれている。居室の入り口にはそれぞれの表札と飾り枠が設置され、利用者の部屋の目印となる品物を飾り、夜間には適度な照明がついて、安心に繋がっている。		

 は、重点項目。